

## 「中華義荘」

### ・各地の中国人墓地

1859(安政6)年の開港とともに外国人居留地が形成された。横浜・神戸等の南京街を拠点とする華僑・華人の歴史も始まる。

華僑・華人のために設立された公共墓地が横浜・神戸の中華義荘である。その後、神戸から分化して京都華僑霊園が黄檗山萬福寺に設立される。一方、近世の鎖国政策のもとでも中国との交易が続いていた長崎には、崇福寺をはじめとする唐寺や稲佐悟真寺等に、唐人墓地が併設される。

### ・横浜・中華義荘（通称：地藏王廟、南京墓地）

1873(明治6)年、現在の中区大芝台(当時の久良岐郡根岸村字大尻)に、神奈川県から土地を貸与されて専用区画を持った。翌年、周辺を借り増して中国人墓地として独立、中華義荘が設立された。

それ以前は、山手の外国人墓地のイギリス人墓地の中に、はっきりと区画されずに埋葬されていた。1859(安政6)に描かれた五雲亭貞秀「御開港横濱めぐり」には、南京人墓と書かれた部分が確認できる。中国人専用の区画が貸与されたと思われる。その頃、中国人は居留外国人の恐らく半数近くを占めていた。亡くなる方も多く、墓地がすぐ手狭になった。そこで再度、中国人専用の墓地の貸与を神奈川県に願い出て、移転した。

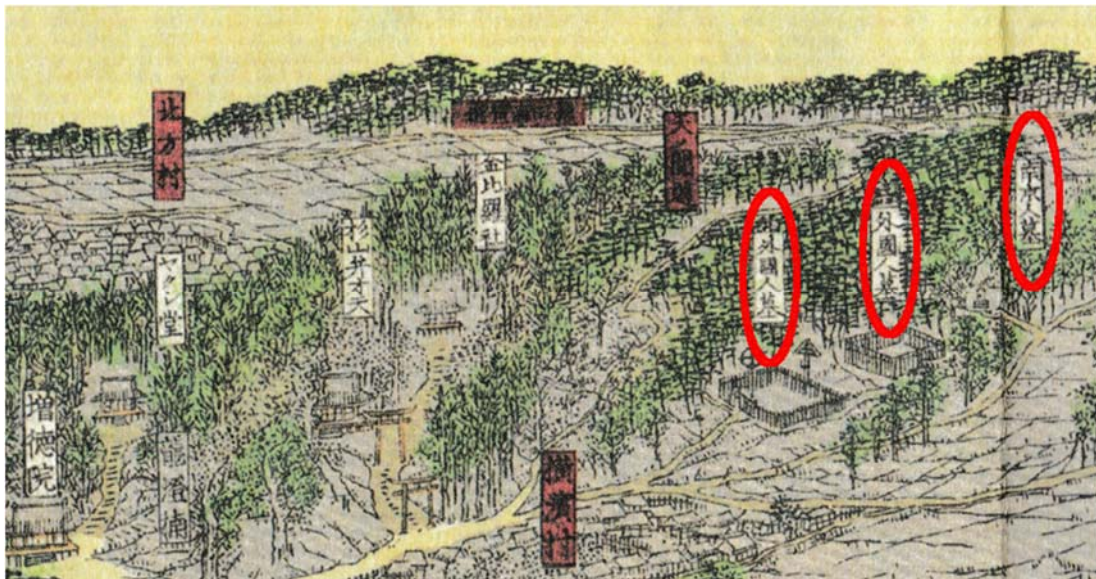


図1 五雲亭貞秀「御開港横濱めぐり」(部分) (\*1)

### ・地藏王廟

中華義荘内の建造物の一つである地藏王廟は、1892(明治25)年の建造。すなわち居留地時代の建造であり、現存する横浜市内最古の近代建築である。門前の案内板の記載内容は次のとおりである。

『横浜市指定有形文化財（建造物）

地藏王廟

指定年月日	平成二年十一月一日
所有者	公益財団法人 中華義荘
所在地	中区大芝台七番地
年代	明治二十五年
規模	木骨煉瓦造、建築面積一九二・一㎡（中庭含む）

安政五年（一八五八）の五力国通商条約によって開港された横浜に、居留地を中心として外国人が生活するようになりましたが、外国人のための墓地もこうした中で設けられました。地藏王廟は、当時横浜で生活していた中国の商人などの醸金により、明治二十五年（一八九二）、中国人墓地（中華義荘）に建てられたものです。

この地藏王廟の建築は、中庭を中心に建物を前後に並んで取り囲む華南特有の形式で、広東や台湾の廟建築に多くみられます。主要材を広東省広州から船で運搬し、軸部や外壁、屋根材は横浜で調達したもののようで、建築当初には、フランス人の手によって焼かれたジェラール瓦が使われていました。現存する市内の近代建築物としては最古のものであり、明治中期、居留地時代の横浜の建築状況を示すものとして貴重です。

平成二十六年三月

横浜市教育委員会』



図2 地蔵王廟

#### ・引用文献

- \*1 御開港横濱之全図でみる御開港横濱めぐり 人文社発行  
基図：五雲亭貞秀「御開港横濱之全圖」1859(安政6)年

#### ・参考文献

- \*2 国立歴史民俗博物館研究報告 第199集 2015年12月  
日本華僑の共同墓地と后土・土地神の考察  
日本国内の華僑霊園の地域差に注目して  
松尾恒一  
<https://ci.nii.ac.jp/naid/120006301627/>
- \*3 Web版 有鄰 平成21年8月10日 第501号  
座談会 横浜の外国人墓地 一山手・根岸・中華義荘・英連邦戦没者一 (1-3)  
斎藤多喜夫／伊藤泉美／樋口詩生  
[http://www.yurindo.co.jp/static/yurin/back/yurin\\_501/yurin2.html](http://www.yurindo.co.jp/static/yurin/back/yurin_501/yurin2.html)